

事業実績報告書

様式2
(2021年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-31	講座名	ごきそテクノカフェ
記載日		団体名・企業名	名古屋工業大学ごきそ技術士会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

「ごきそテクノカフェ」は技術士という国家資格を持つ様々な分野の技術者などが講師となって、技術に関わる話題について座学と質疑応答を通じ、技術者と市民の皆様との対話の場をご提供するものです。市民の皆様には最新の技術がもたらす効果や影響をご理解頂けるよう、分かりやすく説明させて頂きます。また技術者の側は市民の皆様を持つ期待や不安について知り、それに対して説明責任を果たすための一つの機会としています。

毎回「SDGs」を切り口としたテーマで開催しており、1回完結型なので、1回だけ、またはご興味のあるテーマのときだけのご参加もできます。コロナ禍が収束するまではZoomを使ったオンライン開催としています。

	<h3>本テーマにおけるSDGsの目標</h3> <p>11. 住み続けられるまちづくりを</p>  <ul style="list-style-type: none"> 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする 都市と人間の居住地を、誰一人置き去りにすることなく、安全、強靱かつ持続可能にする <p style="text-align: center;">ターゲット</p> <p>11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する</p>
--	--

※写真1の説明	※写真2の説明
ごきそテクノカフェのZoomを使ったオンライン開催の実際の様子(9/18)	6/19開催のごきそテクノカフェで使われたスライドで講演とSDGsとの関係を示したもの。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

オンライン開催は2020年度前期(7月・9月)の試行錯誤を経て、2020年度後期から軌道に乗せることができたので、2021年度前期は全く問題無く開催ができた。2021年7月は、講師の石川英司氏の怪我(大腿骨に障害をお持ちだったが、その大腿骨が骨折した)による入院でりやむなく中止した以外には特にトラブルは無かった。企画・運営する側も、参加する側もオンライン開催に慣れてきたことは大きかった。参加人数は2020年度後期から大きくは増えていないので、さらなる広報手段の検討が必要と考えている。一度参加した方には、継続して案内を電子メールで配信している。コロナ禍収束後には、対面+オンラインという形態に移行したいと考えているが、その具体的な検討を開始したい。オンライン配信には5Gのモバイル通信の活用も考えたい。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

素人でも分かる優しく、わかりやすい話で、十分理解ができました。

街づくりへの意識が高まると良いと思います。

以前から興味があった山車、からくりなどの伝統文化を科学的に聴くことが出来た。

全く初めてのお話で満足しています。

映像が豊富でトンネルの工法が理解しやすかったため。後半の危機管理の捉え方の話が興味深かったです。

廃棄物の分類と処分ルールが理解出来ました。廃棄物処理の基本知識が得られました。

産業廃棄物の処理の流れがわかってよかった。